２０２３年度が
スタートしました

理事長　福井　直美

３年間コロナウイルス感染症対策のため、思うようには活動ができませんでしたが、令和５年５月27日、久々の対面による総会に全国から60名を超える支部長・理事の皆さんが出席され無事に開催できました。対面だけにしたら東京の事務局員中心なってしまうのではないかと心配しておりましたが、このように大勢の支部長・理事の皆様にご出席いただけましたことを大変うれしく思いました。

この間「時を止めず前進する全幼研」としてICTも活用しながら研究・研修を進めてまいりました。昨年は東京支部の皆様のご尽力により、70回を記念する東京大会も開催できその際、記念DVDに全幼研の歩みをまとめました。常に幼児の健やかな成長を願って歩んできた歴史の上に立って、未来にこの幼児教育の良さをつなげていくことが私たちの使命だと強く思っています。私が会員になった時代は、研究大会は 3,000 人を超える参加があり、会員数も多かったのですが、今では全国に支部のない県が増え会員数も 2,000 人を下回っています。これは少子化の影響や園数が減少したこともありますが、どんなに研修や研究をしたいと思っても現場の先生方が忙し過ぎて、会員として活動する余裕やエネルギーが出せない現状があるのではないかと心配しています。それでも全国の会員の皆様の研修を受けたいという熱い思いがあるのは間違いありませんので、現状を鑑みながら、これからの全幼研を改革し前進させていきたいと思います。

その１番目として、香川県での教育経営研修会を最後に、園の経営に関する研修は研究大会に含めることとしました。つまり来年の愛知大会から分科会の１つを経営に関する分科会にするということです。44回の歴史を閉じるのではなく、夏の研究大会に一本化するという考えのもとに決定いたしましたので、ご理解いただけますようにお願いいたします。

そして新しい企画として令和６年11月には「出前講演会 IN 沖縄」を開催する予定です。沖縄の幼児教育に関わる方なら誰でも参加できる半日の講演会にして、後からオンデマンドで全国の皆さんが研修できるように企画しますので、ご期待ください。

今、幼児教育と小学校教育をつないでいくことや、新たにこども家庭庁がスタートし、少子化対策に関する予算が倍増される等、幼児教育は新たな課題や注目を集めていますが、全幼研は会員の皆様一人一人のウェルビーイングを求めて研究・研修に取り組んでまいりますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

本部事務局員も新旧交代がありますが、全幼研の未来を本部・各支部長・理事・会員の皆様と力を合わせてよりよい方向に前進させていくことができることを願い、挨拶とさせていただきます。